

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市上野山児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 24,826人 (前年度比 96.8%)                  平成29年度 25,635人                  平成28年度 24,281人                  平成27年度 24,361人</p> <p>《事業》                  児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者に支払った費用 35,332千円 ( 31,565千円)</li> <li>・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用料収入 0千円 ( 0千円)</li> <li>・ その他収入 0千円 ( 0千円)</li> </ul>
6	利用者の声	<p>《実施状況》                  利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。</p>

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	多くの自由来館の小学生に日常の遊び場として利用され、地域の子どもの交流の場となっている。児童クラブにおいても、放課後の校庭解放の利用を通じ、クラブに在籍していない子どもと屋外で一緒に遊ぶ機会を設けている。また、行事等で縦割りグループの活動を取り入れ、発達に応じて異年齢で協力し合う場を設けている。保護者懇談会を開催するほか、クラブ通信を年6回発行し、育成支援の内容や子どもの様子について適切に家庭に伝えている。子どもに関する情報を共有することで家庭と連携した育成支援に取り組んでいる。	18/18

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

### 四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>今年度は、高学年の子どもたちが自主的に活動できる環境作りを考え、新たに2つのことに取り組みました。</p> <p>一つ目は4年生以上12名の子どもたちが中心になって、児童館祭りの遊びのコーナーを企画したことです。子どもたちは話し合いを重ね、“お化け屋敷”をやりたいという意見でまとまりました。そして、成功させるためにアイデアを出し合い、企画から当日の自分たちの役割分担まで、計画をしっかり立て意欲的に進める姿は、たくさんの人から高評価を受けました。館祭り当日は800人を超える子どもと大人が“お化け屋敷”を楽しみ、大成功に終わることができ、子どもたちにとって大きな自信になったと思います。</p> <p>二つ目は、これまでのジュニアボランティア活動を一歩進める形で縦割り行事を企画したことです。低学年の子どもたちも一緒に楽しめる内容や、グループ対抗で競い合う対抗戦の形式にすることで、グループ同士の結束を深め合えるような内容を考えました。話し合いの中で、色々な考えや意見を出し合うことで、相手の良さを認めることや協力することの大切さの気づきにもつながったことを実感できました。</p> <p>そのほか、今年度から新たに地域の方による遊びボランティアを始めました。月2回開催している“将棋にチャレンジ”には数名の将棋名人に來館いただき、毎回相手をしていただくことで将棋に取り組み児童が増えました。また、近所のご高齢の方が時々來館して、遊び相手をしてくれるのを楽しみにしている子どもたちの姿も見られました。</p> <p>今後も地域の皆様のマンパワーをお借りしながら、より子どもたちの遊びの充実と心の安定が図られるよう活動の充実に努めていきたいと思ます。また、次年度は、乳幼児親子の遊びの場としての児童館の利用がより充実するような取組を検討していきたいと思ます。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度は、新たに子育て支援クラブと共催で主に乳幼児の保護者を対象としたサロンを年8回実施するほか、登録制の幼児クラブを発達に応じた自由参加のプログラムに変えるなど、地域の子育て支援の課題やニーズの把握に努め事業に反映させている。近隣保育所や家庭健康課と連携し、育児情報の提供や気軽に相談できる場を設けるなど、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>児童クラブでは、4年生以上の児童が全員ジュニアスタッフとなり、児童館活動の企画・運営に参加して意見を述べる場を設けた。話し合いの場から自分達で活動を作り上げることができるよう援助し、自己肯定感や社会性の向上等の健全育成に取り組んでおり評価できる。</p> <p>併設の放課後等デイサービスとの合同行事を通して利用者同士の交流を図るほか、子育て支援クラブの活動や、地域の方による日常の遊び・将棋のボランティア活動等を通して、乳幼児親子や小学生等の利用者が地域の方と交流できる場を設けている。また、和太鼓の演奏を地域の町内会、支援学校等の地域行事で発表するなど、地域と連携した運営に取組み、児童館まつりは多くの方が集う交流の場となっている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室